



## 町立病院新任医師の紹介

4月から小鹿野中央病院に着任された先生をご紹介します



## 内科医長 曾根健太 先生

皆様、はじめまして。今年度より町立小鹿野中央病院へ着任となりました曾根健太と申します。昨年度まで2年間秩父市立病院で勤務しておりました。今年度で医師5年目となります。小鹿野中央病院では、医学生時代に臨床実習という形で1週間

間学ばせていただきました。臨床実習以来ですが、学生時代とは異なり、医師としての赴任となりますので身が引き締まる思いです。

私のことを少しお話させていただきますと、埼玉県和光市の出身です。大学は栃木県にある自治医科大学を卒業しました。その後、大宮にある自治医科大学附属さいたま医療センターで2年間初期研修医として勤務した後に、秩父市立病院で2年勤務し今に至ります。堅苦しいお話はここまでとしまして、趣味はスキューバダイビング、バスケット

ボール、テナーサックス、その他運動全般と幅広く行っております。いずれも医師になってからは触れる機会が非常に少なくなりましたが、たまに触れる機会がある時には全力で楽しんでいます。

真面目な話へ戻りますが、町立病院では、訪問診療、施設での診療など今まで経験の乏しいものを中心に、学生時代に町立病院で学んだ際に一番印象に残っている地域包括ケアシステムを学ばせていただきたいです。

当然、一人で学ぼうと思っても患者さんを中心とし様々な職種の関わる地域包括ケアシステムは学べるものではなく、院長の内田先生をはじめとする諸先生方、経験豊富なスタッフの皆様のご協力はもちろん、地域住民の皆様のご協力があってはじめて学ぶことができるものであると考えております。

これから患者様により良い医療が提供できるように皆様と協力していければ良いと思います。どうぞよろしく願いいたします。



## 内科医長 中村香代子 先生

初めまして。この度、小鹿野中央病院内科医師として着任させて頂きました、中村香代子と申します。自治医科大学を卒業し、今年度で医師9年目になります。

「医療の谷間に灯をともし」を建学の精神とした我が母校の理念の元、一人診療所から大学付属病院まで、これまで5カ所の医療機関に勤めて参りました。

場所や規模が異なれば、医師として求められる能力も様々です。その度に葛藤もありましたが、「焦らず 腐らず

怠らず」をモットーに、日々の診療を大切に過ごして来ました。

私は医師という職業につけたことを、とても感謝しています。ひとさまの生活を支えるサポーターとしての役割、人生における重要な局面に立ち会い、ともに闘うことができる立場、そして人生の最期をその人らしく終えるためのお手伝いをさせて頂ける一員となれること。そのすべてに魅了されています。まずは5月に第三子を出産し、小鹿野町の出生数に貢献する予定です。実質の業務は8月からとなる予定ですが、医師として、母として、小鹿野町民として、これからどんな出会いが待っているのかとても楽しみです。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 外来からのお知らせ

**休診** 耳鼻咽喉科 ● 5月14日(木) 水足先生

5月4日(月・祝)～6日(水・休)は、外来を休診します。

※休日急患当番医は、医療ページ(今月号は25ページ)でご確認ください。

発熱等のある人は、発熱外来で対応します。事前に連絡(☎75-2332)をしていただき、受診方法をご確認ください。

ただし、次の症状がある場合は、「埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター(☎0570-783-770)」にご相談ください。

①風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている。(解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます。)

②強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。

※高齢者や基礎疾患等のある人は、上記①②の状態が2日程度続く場合

## ドクター内田のひとりごと

## 思いつくまま気のむくまま 37



## 変化を受け入れる勇気とは…

新年度があけて1カ月が経ちました。あっという間に5月です。こうして歳をとっていくんでしょうね。皆様いかがお過ごしですか?新しい生活や環境にも慣れてきたころでしょう。一方で5月病に悩んでいる人もいるかもしれません。この時期は期待と不安

が入り交じり、複雑な心境になりますね。今回は新しい環境と心境に関して、思いのままつぶつてみたいと思います。

人は新しい環境におかれると程度の差こそあれ不安を感じます。また、人は「変化」を恐れるとも言われます。脳が新しい情報を嫌うというのです。さらに私たちの脳は、失うことが大嫌いです。それまでに費やした時間と労力を無駄にしたくない、今ある現状を失いたくないために変化したくない…。わかるような気がします。私も病院だよりが広報紙の中に組み込まれると聞いたときには、「内田のひとりごと」のコーナーをどうすればいいのだ、と心のどこかで抵抗していました。

しかし、人間の脳はよくできています。わからないものが目の前にあると不安になってしまうので、何でもわかろうとしているというのです。そのために物事に意味づけをする。その際に希望的観測をとりたがるようです。嫌なことがあっても、たまたま起こったことだと意味づけし、なんとかなるだろうと思ってしまふ。つまり人の脳は物事を楽観的

に見るように作られているとのこと。ですので、コロナウイルスが周囲で流行していても、自分は大丈夫だろうと楽観的に考えてしまうのかもしれませんが、嫌なことは記憶から消し去り、明るい未来を創造することで、これまでも人は生き延びています。実際に楽観的な人の方が長生きするとのデータもあります。

歳をとると言うことは変化するということです。老化による変化は徐々に訪れるので怖さを感じないのかもしれませんが、一方で、目に見える急激な変化は怖いものです。災害や事故にあたり急病にかかったり。多かれ少なかれ、人生の歩みの中で遭遇する変化にどう対処するかが問われている気がします。準備には最悪の事態を考え最善を尽くし、結果は前向きに受け止めたいたいです。

“よい変化には必ず苦痛が伴う。それが特徴である”

フェイ・ウェルドン(英:小説家)

“変化に対応する能力を高めるには、『自分は誰なのか、何を大切にしているのか』を明確に意識することである”

スティーブン・R・コヴィー(米:作家、コンサルタント)

新しい生活にまだ慣れきっていない方、病院だよりが広報紙に掲載されはじめた私、歳をとることを認めたくないあなた。みんな、環境の変化を受け入れるための一歩を踏み出す勇気が必要かもしれませんね。今月も頑張りましょう。

院長 内田 望

## 外来待ち時間調査を実施しました

町立病院では、電子カルテの導入や、総合診療科に当日受付や新規の患者さんに対応する外来を新設して以降、満足度調査における外来の待ち時間について「あまり良くない」「悪い」の割合が9%にまで改善しました。しかし、令和元年9月実施時には、16%に増えました。そこで、実際にどの程度お待たせしているのか待ち時間調査を実施いたしましたのでご報告いたします。

予約受診で検査がない場合は、総合診療科、整形外科ともに予約の時間枠である30分以内に診察できていることがわかりました。予約受診で診察前に検査がある場合は、整形外科ではレントゲン検査が主で結果が早く届きますが、総合診療科では、血液検査や尿検査など検査に時間がかかるため40分前に来ていただくようご案内しています。予約の時間枠の30分を含めると予定の範囲の待ち時間であることがわかりました。

予約のない当日受付受診の場合は、40分程度の待ち時間となっています。当日受付の場合、どのくらい待てば

診てもらえるかわからないことが「あまり良くない」「悪い」の評価になっていると考えられます。今後は、当日受付の平均待ち時間をお伝えしたり、外来の進行状況のお声かけをするなど、一層の配慮に努めてまいります。

なお、会計の待ち時間(診察終了～会計終了)については8.6分と、かなり改善されていることがわかりました。今後とも、ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

## 受付から診察までの平均待ち時間(分)

調査期間:令和元年11月29日～12月5日  
有効調査件数235件

